

2024 年度 事業報告

生活介護事業（ポップコーン、第二ポップコーン）

就労継続支援B型事業（ポップコーン）

<報酬改定により月の開所日を1日増やし対応>

今年度は、3年に1回の障害者福祉サービス等の報酬改定が実施されました。基本報酬の大幅な引き上げを期待していましたが、実際の内容は基本報酬の減額となりました。なかでも、生活介護事業の改定では、従来の1日利用しての単位から1日の利用時間へと変更されました。ポップコーンは職員の賃上げどころではない大変な減収になってしまいます。そこで、今後の事業所運営の安定を考え、将来的には国が定めている利用最大日数（月日数-8）を開所日数にすべく令和6年度は5月から1日をまず増やすという対応をいたしました。職員の休日は、週休2日を厳守し代休をとっていただくこととしました。

1 <活動報告>

「生活介護事業（ポップコーン）」

今年度は、何年かぶりに特別支援学校の卒業生の受け入れはなく、4月当初の登録者数は24名でスタートしましたが、7月末には、森理成さんが体調不良により緊急入院し病院先にて亡くなりました。35歳でした。17年間ともに過ごし様々な思い出が蘇ってきます。一生懸命手を動かし空き缶を袋に入れてくれました。そして、バス旅行、サッカー観戦、運動会など、モレラやカラフルタウンにも行きました。様々な思い出が蘇ってきます。本当に淋しくなりました。また3月末に2名の方が退所されて、3月31日現在の登録者数は21名となりました。（4月から2名の方が入所されました）

近年の新規利用者の動向は、本人にあった活動内容をしてくれる事業所というより、保護者の思い（例：送迎や入浴サービスが充実している。親の会がないなど）でサービスを組み合わせて生活をしていく傾向があると思います。そのような中でありますが、私たちとしては、重度の仲間たちにできるだけ寄り添い、尊重し、日常の活動を通して豊かな気持ちを育む努力をしていきたいと考えています。

昨年度に続き「今日やりたい作業を自分で選択するところ」から始まります。作業はリサイクル全般（アルミ缶つぶし、坂口捺染さんへ缶回収。ペットボトルラベル剥がし、回収機など）、下請け（ハンガーの滑り止めつけや棒にキャップをはめること）、自主製品（ビーズ作り、脱臭剤＝カフェ粉）の中から選び実施しました。例えば、選ぶときには、絵カードや実物を提示するなど視覚的なことも取り入れたり、また問いかけや見守りも繰り返し行いました。毎日の積み重ねもあり、少しずつ表情や視線、声を出したりと自分の意思で作業内容を選べるようになってきています。

リサイクル作業は重度の障害をもった方たちにとって、とても分かりやすい作業でラベルを剥がす、ボトルやアルミ缶を袋に入れる、手渡しする、回収時に火ばさみを使い缶を入れるなど分業で行い、その方の能力が十分発揮できるように行いました。作業に取り組むペースそれぞれ違いますが、ペアを組んだり皆でひとつのことを行うことで変化も生まれてきています。例えば、潰した缶をカゴに入れ運ぶ（バケツリレー形式）渡す際には、以前であれば相手の手元をみないで渡す事が多かったです。今では、「はい」と声をだしたり、相手が受け取ってくれるまでカゴを離さなかったりと些細なことかもしれませんが作業を通して成長を感じる場面が出てきています。

また、一部の仲間たちは、今年度も1日通して作業を実施する日を月に数回設け実施しました。継続して行っていることで、着実に作業意欲（始まりの時間が近づいてくると準備にとりかかる仲間など）や能力の向上（脱臭剤づくりでは、回数を重ねるごとに袋を閉じる機械＝シーラーの

ボタンの長押しができるようになったことなど）がみられます。

活動は、コロナ前の内容（お弁当買い、昼食作り、給料日企画（買い物）などの外出体験）に戻していき、仲間たちの笑顔を大切にしました。給料日企画は、お給料をもらい、近隣のドラックストアへ好きな食べ物を買いに行きます。当日は、企画の説明をしている段階から「コーラ」といい早く買いたい、飲みたい気持ちが伝わってきます。また好きな物を買える楽しさは格別であり、じっくり商品をみて選び落とさないようにレジまで運んだり、季節の商品を選ぶ仲間もいたり毎月楽しみのひとつとなっています。

今年度からは、月に1回芸術家の豊富先生をお招きし、仲間たちの得意なこと、色を塗ることやシール貼りなどを取り入れながら芸術を楽しみました。例えば、仲間たちが好きな色の画用紙と色を選び、筆で塗ったり、画用紙に絵具をたらし、二つ折にしてひろげてちょうちょなどを作ります。個々の作品を組み合わせ2カ月から3カ月かけ1枚の作品を仕上げました。作品は、岐阜市オンリーワン芸術祭や福祉フェアなどに展示していきました。

豊富先生は、毎回素材（スポンジや風船を使いスタンプ形式で絵を描くなど）や表現方法（色の付いたビー玉を銀色の用紙が入った木箱のなかに転がすなど）などを工夫してくださることで目の前のことに没頭し取り組む仲間たちの姿が本当に多くなりました。職員として芸術活動時の仲間たちの良かった姿などを共有し、日々の活動にも取り入れていきたいと思います。

それ以外の活動として、誕生日企画、季節の行事（花見、スイカ割り、盆踊り、焼き芋、クリスマス会、成人を祝う会）や創造的活動（ポッチャ・ボーリング・レクリエーション、感覚遊び）などを行いながら仲間たちの笑顔や主役になれる時間を大切に捉え今も取り組んでいます。

「生活介護事業（第二ポップコーン）」

開設3年目となる今年度は、3名の仲間（いずれも特別支援学校卒）を迎え入れスタートしました。うち一名のAさんは在学中から不登校の状態が続き、施設への通所ができるのかが懸念されていました。その心配をよそに当初は毎日通所し、外出行事（連絡会総会や交流運動会）への参加も実現できました。しかしながら、秋に入るところから欠席が目立ちだし、12月の途中からは全く通所できていない状況にあります。Aさんの母親には通所させたい思いはあるので、いずれ第二ポップコーンに復帰し、ハリのある生活を何とか取り戻せないか、今後もつながりを絶やさないようにしていきたいです。

作業は昨年度と同じく自主製品班（ビーズ）、パソコン班（部内報づくり）、リサイクル班（ペットボトルの分別と回収ボックスへの搬出）に分かれ実施しました。個別的な支援に留まらず、仲間同士協力し合うことも意識して取り組んできました。例えば室内でのペットボトルの作業では、ボトルの運搬と分別することを分担しながら受け渡しの際には必ずタッチを交わすようにしています。また施設外にある回収ボックスでは車いすの仲間が袋からボトルを取り出し、立位をとれる仲間がそれを受け取り、高い位置にある投入口へ入れるといった方法も取り入れました。こうした毎日の積み重ねの中で少しでも仲間意識が深まることを信じて取り組んでいます。また、分別したキャップについては、回収を行っている業者（スーパーメイト）へ搬出しました。この会社がキャップを回収したによる収益の一部は、開発途上国の子どもたちにワクチンを贈るNPO団体へ渡ります。私たちが今年度は6月と3月に持ち込んだ計74.35kgから1,478円が寄付されました。わずかな額かもしれませんが、自分たちの作業が社会のために役立てたことを喜び合いました。

隣接するグループホーム敷地内の畑での作業は、多くの仲間が収穫を楽しみにしています。カブやダイコン、サツマイモ、ジャガイモといった根菜類、その他キュウリ、ナスなどの夏野菜を育て、販売するだけではなく適宜調理の材料として使用しました。例年実施している焼き芋パーテ

ィーは、今年度はじめて父親有志のみなさまの協力のもと、一連の工程をよりスムーズに行うことができました。何よりお父さんと一緒に焼き芋をほおぼる仲間の姿は、いつもと違う一面が垣間見ただけでなく、周囲がより和んだ印象があります。

第二ポップコーンでは5名の仲間有志で「話し合い」の時間を設けています。今年度も普段の活動や行事についてお互い意見を交わしたり、それぞれの興味や悩みなどを出し合うほか、きょうされんから発行されるニュースのクイズを協力して解いたりしました。また、全体の活動としてミニイベントを企画するための考えを出し合い、自身の趣味などにまつわるクイズを出題しました。きょうされんのクイズになぞらえてクロスワード形式にしたのも仲間たちからの発案でした。回答する側の仲間たちにとって、このイベントの内容を理解できる度合いはまちまちですが、職員と一緒に考えたり、番号札を選んだりしながら、正答・誤答に一喜一憂する全体の雰囲気や普段一緒にいる仲間が懸命に出題する姿に刺激を受けたものと思います。

開設から3年たち、普段の活動もだいぶ板についてきて、私たちのチームカラーを出せるようになってきたように感じます。しかし、そのことに慢心せず、仲間が主体であることを軸に据えながら、ポップコーンやふぁみりいポップとの連携を怠らないようにしていきたいです。

「就労継続支援B型事業（ポップコーン）」

今年度の登録者は2名でスタートしました。6月に1名、3月に1名増え、年度末には登録者が4名となりました。そのうち2名はほぼ毎日通所されました。1名は週に2日～3日、午前中の通所でした。残る1名は、様々な理由（てんかん発作の影響で外出できない、など）で通所日数を増やすことが困難で、およそ月に2日ほど利用されました。

主な仕事は、コーヒーの製造・販売でした。作業工程は、コーヒー生豆のピッキング、焙煎豆のミル（粉碎）やグラム量り、袋詰め、バザー販売（岐阜市役所福祉ショップ Oh.EN、岐阜県庁、清流文化プラザなど）での売り子、委託販売先への納品など、多岐に渡りました。

工賃は前年度より増え、毎日通所している利用者には賞与も含めて月平均2万円お渡しできました。

新しく加わった利用者は、自分のペースで、できる範囲で、誠実に作業に取り組まれています。先輩の利用者にとって、一緒に働く仲間ができました。後輩の様子を見守りつつ、必要なことを後輩に教えたり、職員に後輩の様子を伝えたりしてくれます。仲間が増えることで、休みがちだった利用者の利用頻度も増えているように感じます。コーヒー作りの作業場がさらに活気づいてきました。

今後は、新規利用者の受け入れと既存利用者の利用日数・時間を増やすことを目指します。また、それに見合った工賃が支払えるよう、売上増を図ります。

これからも利用者と職員が協力しあい、一つのチームとして、美味しいコーヒーを作っていきます。

2 各事業の取り組み

「生活介護事業（ポップコーン、第二ポップコーン共通）」

重度・重複障害者を中心に生産活動や創造的活動を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけることを目標にしながら仲間にはたらきかけを行った。

- (1) 個別支援計画作成
- (2) 身体等の介護
- (3) 入浴（週2回）
- (4) 生産活動

- ・雑貨製品の製造販売（主にビーズ製品）
- ・リサイクル作業（アルミ缶、ペットボトル、飲料用パックの回収、分別、搬出）
- ※地域からのアルミ缶回収を月に 2 回

障がい福祉施設こぼんだからのアルミ缶・ペットボトル回収を週 1 回実施

- ・軽作業（ハンガーのウレタン付け、耐震棒づくり）
- ・野菜の生産、販売
- ・パソコンに入力による部内報（仲間新聞）の作成

（５） 創造的活動

- ・リトミックなどの音楽活動 ・工作や芸術などの創作活動 ・調理実習
- ・おやつづくり ・ボッチャなどのレクリエーション

（６） 外出（散歩、給料日企画の買い物など）

（７） 送迎

「就労継続支援B型事業（ポップコーン）」

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他の機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。

（１） 個別支援計画作成

（２） 生産活動

- ・珈琲製造、販売（道の駅富有柿の里・マーサ 2 1 福祉の店）
- ・バザー販売（毎月 2 回 岐阜市庁舎福祉ショップ Oh.EN・岐阜県庁舎バザーへ）

（３） 送迎

（４） 工賃

3 2024 年度 年間延べ利用者数及び開所日数

ポップコーン

生活介護事業 （定員 30 名 2025 年 3 月 31 日 登録者数 21 名）

- （１）開所日数 252 日
- （２）年間延べ利用者数 4738 人（1 日平均利用人数：18.8 人）

就労継続支援B型事業 （定員 10 名 2024 年 3 月 31 日 登録者数 4 名）

- （１）開所日数 252 日
- （２）年間延べ利用者数 320 人（1 日平均利用人数：1.2 人）

第二ポップコーン

生活介護事業 （定員 30 名 2025 年 3 月 31 日 登録者数 23 名）

- （１）開所日数 252 日
- （２）年間延べ利用者数 4258 人（1 日平均利用人数：16.8 人）

4 年間行事

4 月 入所式・年度始め式 9 月 愛護ふれあいバス事業 11 月 交流運動会、サッカー観戦
12 月 クリスマス会 1 月 新年会・初詣 2 月 成人を祝う会

令和6年度事業報告

共同生活援助事業所（グループホーム） ふぁみりいポップ

短期入所 （ショートステイ） ほたる

入居者 5名

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝 月1～2回土曜日の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

大切にしたこと

- ・入居者の第二の自宅としてくつろげる場になるように努めました。
- ・必要に応じて保護者と密に連絡を取りあいました。
- ・医療との連携、健康状態の把握、管理に努めました

具体的な支援内容

（1）共同生活援助計画の作成

（2）食事・排泄・入浴等日常生活の介助

- ・入居者の安全・安心を第一にして介助しました。
- ・てんかん発作をもっている入居者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。

（3）趣味やお楽しみの時間の提供

- ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、入居者それぞれにあったテレビや DVD やパソコン雑誌、タブレット端末を用いて取り組みました
- ・仲間の誕生日祝いを企画しました。

（4）日常的な相談や話し相手

- ・日常の中で話し相手になりました。

（5）食事の提供

- ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
- ・調理の計画を立て、献立を作り毎週配布しました

（6）健康管理・金銭管理の手助け

- ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
- ・必要に応じて、内科や歯科などの受診、グループホームでの訪問診療の調整・同席しました。
- ・服薬、与薬管理を徹底しました。

（7）夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助

（8）緊急時の対応

（9）日中活動の場等との連絡・調整

- ・仲間の状態等の情報を書類や FAX でポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。

（10）衛生面の管理

- ・行政からの通知を参考にしながら、引き続き新型コロナウイルスの感染対策を行いました。
- ・CO2 検知器の利用 換気 職員の PCR 検査

○短期入所（施設名：ほたる）

ほたるに泊まる日は、利用者が長時間ご家族から離れることになり、他の仲間や職員とかかわりながら、家とは異なる環境で過ごしていただきます。いずれ訪れる親離れ、子離れの準備として位置付けます。

介護にかかわる家族の負担を軽減すること、家族の都合や緊急の場合に対応するなど、家族の要望にできる限りこたえます。

短期入所事業

- (1) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
- (2) 食事の提供
- (3) 趣味やお楽しみの時間の提供
- (4) 健康管理・服薬管理の補助
- (5) 夜間における安全確認や身体介助
- (6) 緊急時の対応
- (7) 日中活動の場等との連絡・調整

一日の流れ

夕方 16 時	帰所・入浴	翌朝 6 時 15 分	起床
18 時 15 分	夕食	7 時	朝食
19 時	自由	8 時	出発準備
21 時 30 分	リビング消灯	9 時 15 分	出発
23 時	個室消灯		

年間の記録

2024 年

7 月 誕生日会

8 月 花火 9 月 誕生日会

10 月 誕生日会 12 月 誕生日会

2025 年

2 月 誕生日会

1 日平均利用者数 （令和 5 年度）

開所日 314 （319）

GH 4.83 （4.79）

SH 2.16 （2.16 ）

令和 6 年度振り返って

コロナウイルス感染症が令和 5 年 5 月で第 5 類感染症になり 2 年となりますが、消毒・検温・手袋・マスクの着用・ペーパータオルの使用など感染対策は引き続き続いています。活動としては、ほぼ戻っているはずですが、なにかコロナ前とは違う距離感を感じます。

慢性的な人手不足で開所の頃に行けていたほたるをみにいたり、夜ちょっとお出かけに行ったりと、いったりとすることが難しく寂しく感じます。そのような中でも第二ポップコーンの屋上にみんなであり東側と西側の花火大会を同時にみることができたのが一番の思い出です。

親亡き後も見通し前年度に引き続き、土曜日開所を隔週で行いました。生活介護との兼ね合いもあり、想像以上に人手が足りず、GH の職員は 10 泊程度の夜勤が当たり前で 200 時間を超える労働時間もあり、昨年の理事会で挙げた課題は解決することなく 1 年間続きました。さらに秋ごろには夕食をつくられていた方がやめられ配置基準に必要な人数もぎりぎりになり、職員の勤務自体も苛酷になり、何か起こった場合に仲間の安全の確保できなくなるのではと不安に感じます

そのような中でもショート利用者さんの母の手術の際 1 週間ほど受け入れ、報酬のない昼間にも職員が入れ替わりで対応しました。また、保護者様の親の介護のために利用者さんを可能な限り土曜日に受け入れ、グループホーム入所者さんの母の手術の際にも対応しました。利用者様だけでなく保護者様の年齢もあがってきており、これからますます GH の必要性が高まってくることを感じます。

ショートステイの利用はどこもいっぱいであり、なんとかほかの事業所で利用できることになってもそのあと簡単に断られることが多いように感じます。大規模の入所施設がなくなっていくなか、1 法人ですべてを対応するのに無理があるのにもかかわらず、県や市に重度の障害になればなるほど受け皿がないことに疑念を抱きます

また、虐待防止・身体拘束・強度行動障害・避難確保計画・災害が発生したときの事業継続と復旧計画（BCP）の会議・記録・訓練を行いました。年単位・月単位・日単位の書類が日々の時間を圧迫し、利用者の安全・生活を守るために整備されたはずのものが、振り返る時間も少なくなり日々が過ぎて行ってしまうことに憤りを感じています

令和6年度事業報告

特定相談支援事業所 ステップ

・活動報告

障害者（児）ご本人やご家族の願いに寄り添い、その人らしく地域生活が送れるようサービスを提案しつつ、サービス等利用計画を作成しています。具体的な支援については、関係機関・関係者と情報を共有し、ご本人やご家族の意向に沿っているか？を確認しながら進めています。

・扱い件数

障害者特定相談支援事業

サービス等利用計画案作成	51 件
モニタリング報告書作成	162 件
合計	213 件

障害児特定相談支援事業

サービス等利用計画案作成	5 件
モニタリング報告書作成	6 件
合計	11 件